



内定者の声

林野庁総合職技術系

2023年度 内定者一同

はじめに

はじめまして。

この度は「内定者の声」を手にとっていただき、ありがとうございます。本冊子は、国家公務員総合職試験・官庁訪問やその対策について受験者の皆さんに不安や悩みを少しでも軽減していただけたら…という思いから内定者の実体験をもとにした様々な情報をお届けすべく作成いたしました。

特に、試験区分である「森林・自然環境区分」は書籍やインターネットにおいても情報が少ないため、ぜひ活用していただけたらと思います！

私たちも、去年は様々な思いを巡らせながら就職活動を行っていました。その中で、林野庁という広大な森林面積を有する日本の森林管理を担う行政機関に、どのような思いをもって志望したのかを知っていただき、参考にしてもらえると嬉しいです。

また、近年は国家公務員採用試験が毎年変更されるため、最新のトピックを盛り込みました。ぜひ一読いただき、試験対策としてお力になれば幸いです。

皆さんが試験を通過し、林野庁で一緒に働けることを、内定者一同心待ちにしております。

なお、試験や官庁訪問等の情報は、2023年度のものをご参考に作成しておりますので、2024年度の情報については必ずご自身で以下のサイト等をご確認いただきますようお願いいたします。また、本冊子に記載している試験対策方法等は内定者による主観や一経験にすぎません。ぜひ、自分の性格や過去の経験等と照らし合わせ、取捨選択をしつつ参考にさせていただけたら幸いです。

2023年度 林野庁総合職(技術系) 内定者一同

詳しい情報について

『林野庁 HP 採用案内』 <https://www.rinya.maff.go.jp/j/kanri/saiyou/>

『人事院 国家公務員試験採用情報 NAVI』 <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

目次

国家公務員採用総合職試験と内定	5
第1次試験	6
〈基礎能力試験〉	6
〈専門多岐選択式試験〉	9
第2次試験	13
〈専門記述式試験〉	13
〈政策論文試験〉	16
〈政策課題討議試験〉	16
〈人物試験（人事院面接）〉	17
〈英語試験による加点〉	19
官庁訪問	20
〈官庁訪問のスケジュール〉	20
〈訪問日＆面接方法の選択〉	21
〈事前準備〉	22
〈官庁訪問当日〉	23
番外編 インターンシップ＆説明会	26
内定者情報	29
基本情報	29

志望動機31

< 公務員併願 >31

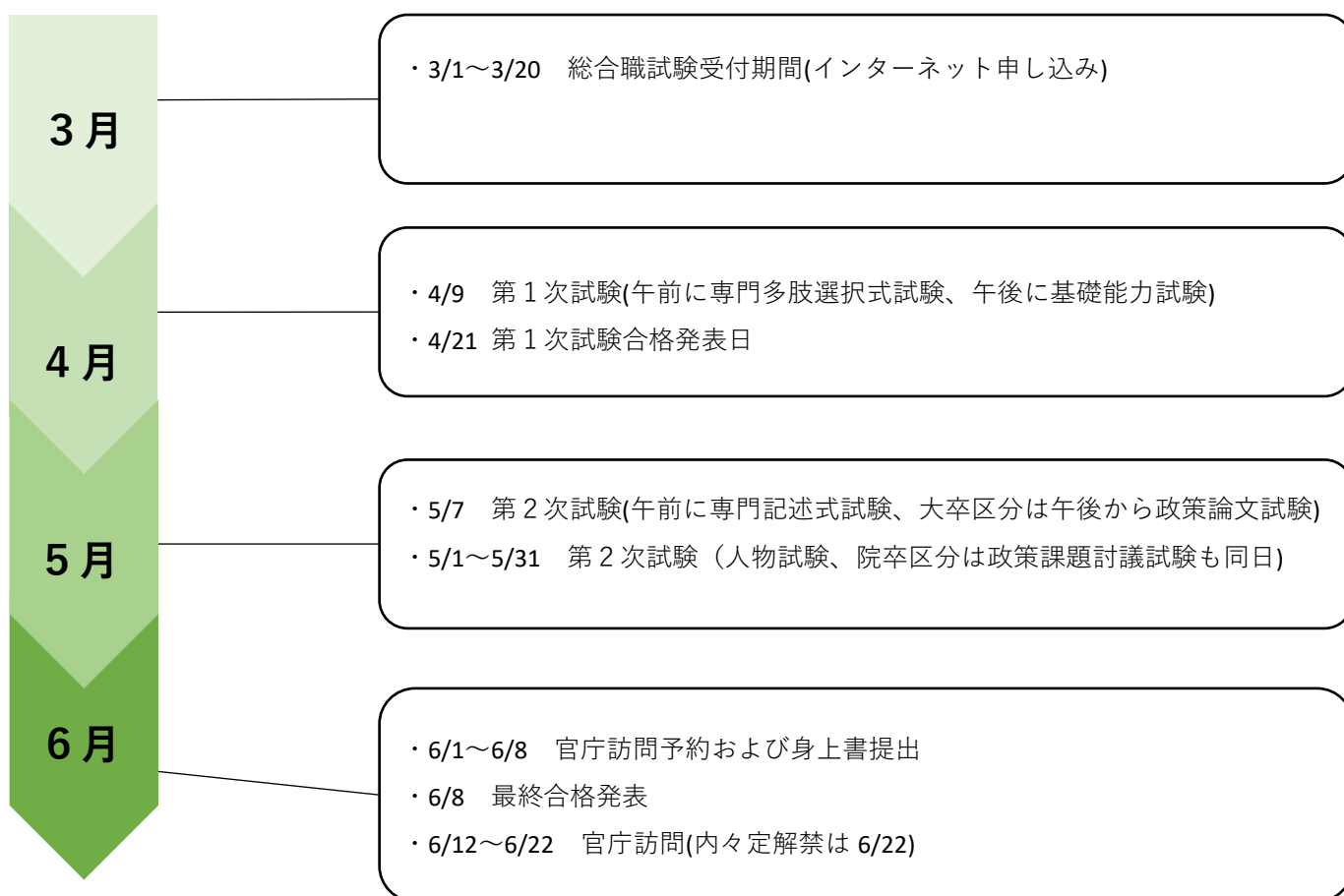
< 民間併願 >33

内定者プロフィール34

国家公務員採用総合職試験と内定

林野庁から内定をもらうためには官庁訪問を行う必要があります。官庁訪問を行うための条件として国家公務員採用総合職試験に合格することが必須です。

林野庁(技術職)では、森林・自然環境区分もしくはデジタル区分(大卒程度試験もしくは院卒者試験)を受ける必要があります。インターネットでの申し込みに始まり、第1次試験と第2次試験を合格することで国家公務員採用総合職試験最終合格となります。その後、官庁訪問を行うことで林野庁から内定を得ることができます。以下が2023年の試験申し込みから内々定解禁までの流れとなります。



※4/9の第1次試験および5/7の第2次試験は服装自由

※人物試験の日程は、大卒区分は5/7の第2次試験日に試験監督から紙で知らされる。院卒区分は5/8以降にメールで人事院から日程を知らされる。

※あくまでも昨年度の試験の流れですので参考程度に目を通していただき、今年の試験や官庁訪問の日程については人事院や農林水産省、林野庁等のHPをご覧ください。

特に2024年度の試験は2023年度と比較して試験スケジュールが大幅な前倒しとなります。詳しくは人事院ホームページの国家公務員試験採用情報NAVI(<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)を確認してください。

第1次試験

第1次試験では、基礎能力試験と専門試験が行われます。どちらもマークシート方式（多岐選択式）の試験です。1次試験の合格者は、2つの試験の成績を総合して決定されます。1次試験においては、試験日の翌日に正答番号が人事院 HP で公表される（1週間のみ）ので、持ち帰ることのできる問題冊子に自分の解答を忘れずに記しておきましょう。合否が判明するまで約2週間ありますが、合格してから2次試験対策を始めると間に合わない可能性があるので自己採点をして2次試験対策に取り組みましょう。

〈基礎能力試験〉

知能分野（判断・数的推理、文章理解）と知識分野（自然科学、人文科学、社会科学）から成る試験で、マークシート方式（多岐選択式）で行われます。出題数と解答時間は、院卒者試験と大卒程度試験では異なるため、注意しましょう。

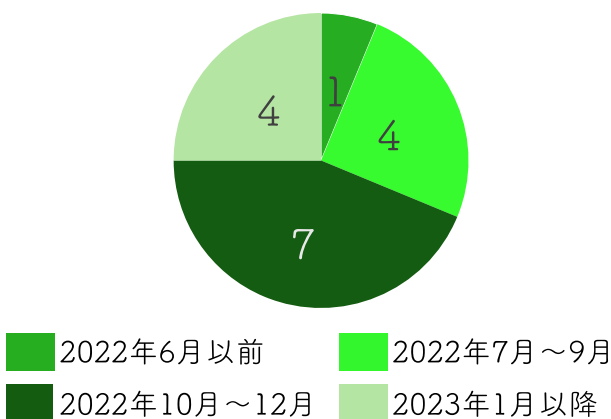
- ・院卒者試験:知能分野 24 題、知識分野 6 題、計 30 題を 2 時間 20 分で解答
- ・大卒程度試験:知能分野 27 題、知識分野 13 題、計 40 題を 3 時間で解答

※2024 年度から基礎能力試験の問題数に変更されるようです！

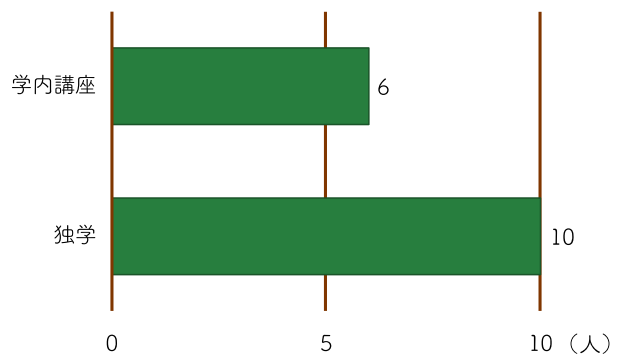
対策

対策開始時期としては半年前の時点で始めている人が多いようです。基礎能力試験は知能分野(数的処理・判断推定、文章理解)の配点が高い、時間制約が厳しいといった特徴があります。しかし、満点を目指す必要はなく、合格に必要な点数と得意分野からどの問題を取るべきなのか事前に整理しておくといと思います。また、知能分野と過去問による勉強に時間を割いている人が多い傾向があります。

基礎能力試験勉強開始時期(人)



勉強方法



1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者プロフィール

知能分野(数的処理・判断推定、文章理解)

- 出題数が多いため、さまざまな出題パターンがある数的処理に絞って勉強しました。数的推理と判断推理の参考書を1冊ずつ購入し、3~4周しました。1周目では、分からない問題を洗い出し解き方を覚える目的で、2周目以降は、分からない問題の解き方を覚えたことを確認する目的で取り組みました。1周目では分からない問題に固執しないこと、逆に2周目以降は分からない問題に時間をかけ(10分くらいは考える)、覚えた解き方を思い出すことを意識していたと思います。
- 数的処理の配点が高いので早めから対策を行った方がよい。
- 試験前年の11月ごろから勉強を開始しました。始めたのが遅かったこともあり、効率を最優先で取り組みました。配点の大きい数的推理と判断推理はある程度の慣れが必要なので、年明け頃までに新スーパー過去問ゼミ(以下、参考書)を一周して基礎を固めた後は専門試験の勉強と並行して直前まで勉強しました。私は数学があまり得意ではなかったため、問題の出題パターンや解法を身につけることを目標にしました。文章理解は試験1ヶ月前くらいから参考書で対策しました。
- 数的処理は市販の参考書を周回して解法パターンを習得した後に、過去問を使って短時間で解く訓練を積みました。文章理解・資料解釈の対策は3ヶ月くらいから始め、市販の参考書の問題を1日2~3題解くようにしていました。
- 数的処理と判断推理に特に力を入れて勉強した。一問ずつ時間を決めて解いていった。過去問を解いて時間配分と問題の傾向を掴んでおくこと本番の焦りが減ると思います。
- 数的処理や判断推理は慣れがあるので、毎日一問は解くようにしていました。
- 数的処理と英文読解を中心に過去問を10年分解き、問題慣れするようにした。

試験時間に関して

- 本番は時間に追われることになるので、日頃から1問にかける上限時間を設定して問題演習を行った。
- 本番の解答時間に余裕がないため、過去問を多く解いて時間感覚を養った。
- 基礎能力試験の方が時間がタイトなので、計算ミスしやすかったり自分の苦手な問題は捨て問にしたり、事前に時間を測って自分なりの時間配分を想定しておくなどある程度の工夫と訓練が功を奏します。逆にいうと練習した人がかなり有利なので勉強頑張ってください！
- 時間を意識しました。ダラダラ解いても本番に役に立ちません。

その他

- 時事対策は「速攻の時事(実務教育出版)」を用いた。また、日頃からニュースを見るように意識した。
- 公務員試験用の教材を用いて勉強した。出題範囲は広いがほとんどが大学入試の範疇なので、焦らず着実に進めることを心がけていた。

基礎能力試験当日に意識したこと・アドバイス

- ・ 試験日に雪が降り、教室がとても寒くて全身震えながら試験を受けたことを覚えています。どんな試験環境にも負けない身の回りの準備をしておくが良いと思います。
- ・ 事前に用意していた鉛筆を筆箱に入れ忘れ、本番でかなり焦りました。普段あまり使用しないものは、念入りに荷物確認した方が良いかもしれません。
- ・ 服装は試験の日はフォーマルにする必要は本当はないので、寒さを気にせず自分が試験に集中できる温かくて楽な服装でいくのがおすすめです！また、基礎能力試験の方が時間との戦いになる試験らしい試験ですが、落ち着いて取り組めば大丈夫です！
- ・ 当日は午前中に専門多肢試験、午後に基礎能力試験の順で実施される。使用できる筆記用具はHBの鉛筆、消しゴム、鉛筆削りのみで、シャーペンには使えないので注意。
- ・ 基礎能力試験は1問に使える時間が5分程度しかないなので、わからないと思ったら切り替えて次の問題に進むことを意識しました。一方で、何問も飛ばしていると不安にもなるので、解ける問題から解いていくことも重要だと思います。また、私は頭の回転を良くするため、ブドウ糖のラムネをお守りに持っていました。
- ・ 解けそうで解けない問題がいくつかあって焦りました。でも意外と後半に簡単な問題があったりするので、あらかじめ何分経ったら必ず次の問題に進むというのを意識していました。後から戻ったら意外とすんなり解けたりするので、一度切り替えて次の問題にすすむのはおすすめです。あとは、周りの人が頭よく見えて落ち込む現象に私は陥ったので、自分が解けない問題は他の人も解けてない！くらいのマインドで挑むことが一番大事かもしれません。

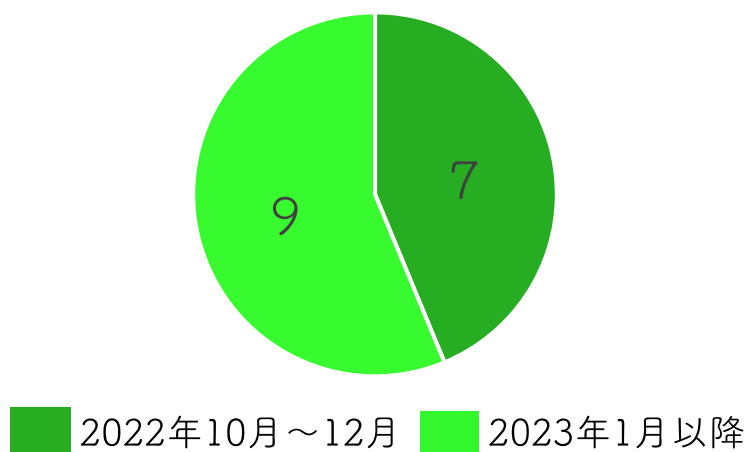
〈専門多岐選択式試験〉

院卒者試験、大卒程度試験ともに 121 題ある問題のうち、40 題を 3 時間 30 分で解答します。基礎能力試験同様マークシート方式（多岐選択式）です。40 題中 13 題は必須問題で、残りの 27 題は 12 科目の中から任意の 3 科目（以下の一覧を参考）を選択し解答します。なお、選択科目については、3 科目を超えて解答しても超えた分については採点されません。**また、第 1 次試験はこの専門多岐選択式試験が午前に、前項の基礎能力試験が午後実施されます。** 試験当日にそのことを知って焦ることのないよう気持ちを整えておきましょう。

対策

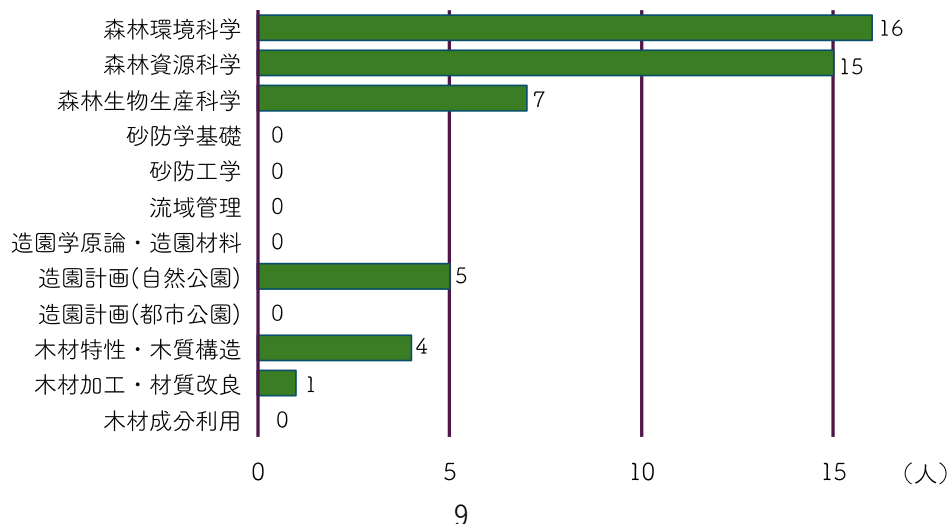
勉強開始時期は基礎能力試験より遅い傾向がありました。これは数的処理や判断推定と異なり、大学での専攻や興味がある分野であるため親しみがあったからだと考えられます。

専門多岐試験勉強開始時期（人）



必須問題は高校生物・高校地学の内容から始まり森林に関する基礎的事項、最近の林業の動向、山地災害や砂防・流域に関する問題、自然公園や生物多様性といった様々な分野から出題されます。選択問題に関して、今年の内定者は以下のグラフとなりました。

専門多岐試験の選択科目



選択理由

林学系(森林環境科学・森林資源学・森林生物生産学)

- ・ 大学の専門分野、それに近い分野を選びました。
- ・ 森林・林業白書で対策できる問題が多くあり、専門記述試験の対策にもつながるから。
- ・ 自分は学部卒で受験し、所属する研究室の分野としては木材成分利用でしたがそれほど内容に詳しいわけではなかったので、一番スタンダードと言える最初の3つを選びました。専門の内容を選ぶと、計算問題や専門的な細かい内容を聞かれる問題も多くなるうえ、林業白書と森林・林業実務必携のメインとなる二つの参考書ではカバーできない内容も含まれ勉強がしにくくなると感じました。
- ・ 森林・林業白書と森林・林業実務必携からの出題がメインで対策をとりやすいから。
- ・ 官庁訪問で役立ちそうだったため。

造園計画(自然公園)

- ・ 大学の専門と重なる分野の中で自分の興味があるものを選んだ。
- ・ 林野庁と環境省の2つが志望先だったので、両省庁の業務分野に関連し、自分が興味関心を持てる科目を選択しました。

林産系(木材特性・木質構造、木材加工・材質改良、木材成分利用)

- ・ 大学の専門分野と重なっていたため、選択しました。
- ・ 全体的に大学で基礎は習っていたため、当初はかなり迷っていた。最終的には、研究室の専攻分野と重なっていて、なにより自分の好きな分野である木材関係を中心に選んだ。

また、選択科目を決めた時期としては勉強を始める前に決めたという意見が多かったです。他にも、自分の興味のある科目や勉強をしていてモチベーションが上がる科目を3つ以上選択して本番の問題を見て科目を決めている人も複数人いました。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

勉強方法

「森林・林業白書」、「森林・林業実務必携」、「過去問」の3つを利用して対策している人が多かったです。アンケートを取ったところ、以下のような勉強方法があげられました。

- 最新の森林・林業白書と森林・林業実務必携が基本の教科書だと思います。まずは白書の内容を一通り自分でノートにまとめ直して内容を頭に入れました。その後、学校から取り寄せた過去問を解き進めながら、わからなかったものや曖昧だったものはその都度ふたつの参考書の該当する箇所を参照し、正しい選択肢を選ぶ根拠を明確にしていきました。一つずつ着実に知識を定着させていく作業でした。勉強中は特に問題を解くスピードを意識する必要はないと思います。
- 過去問を解いて、森林・林業白書や森林・林業実務必携を使って、過去問の誤りの部分や周辺知識を盛り込んだ自分のオリジナル解答書を作成した。
- 印刷した過去問を設問ごとに切り取って、ノートに貼り、自分自身で解答・解説を作っていた。自分で能動的に調べたため、理解が深まるだけでなく、周辺知識の獲得にも役立った。
- まず過去問を5年分くらい入手し、森林・林業白書や森林・林業実務必携などを活用しながら、過去問の周辺知識をまとめた解説書を作成しました。そしてその後は解説書の内容を読み込み、知識の定着を図りました。解説書の作成にはかなり時間がかかるので、できるだけ早くに着手することをおすすめします。専門外で事前知識がほぼゼロの状態からスタートする場合は、夏休みくらいには始めておくと余裕が出ると思います。また、森林・林業白書は、この試験対策における必読書ですが、情報量が多いため、始めは何が重要な情報かわからないと思います。そのため、まずは白書の概要版や林野庁のHPにある「森林・林業・木材産業の現状と課題」を活用して、要点を抑えるのが良いと思います。
- 過去問をベースにして、森林・林業白書で答えを探すと同時に周りのページも読み込んでいました。最終的には自分なりの解答をまとめるようにしていました。過去問には何度も出題されている分野など、傾向がちりばめられているので、何度も繰り返し解くことをおすすめします。
- 地学分野の勉強では「小学館の図鑑 NEO シリーズ」のような図鑑が、広く浅くポイントがまとまっていて写真や図も満載で頭に入りやすい。
- 過去問のそれぞれの大問がどの分野から出題されているのかをまとめ、多く出題されている分野から取り組みました。分野ごとに、白書を読み込む→過去問を解いて答え合わせ→間違いの選択肢でどこが間違えているのかをまとめる、をしていました。広く浅く勉強し、5つの選択肢から2つまで絞れても2択で間違えたら意味がないため、狭く深く勉強して自信のある分野を増やしていく、という勉強方法を取りました。直近2年分は直前の演習用にとっておき、直前に解いて自分の力をはかりました。

過去問を解いて正解の選択肢だけでなく不正解の選択肢についてもノートにまとめたり、オリジナルの解説を森林・林業白書や林野庁・環境省のホームページ・資料を見て作成したりといった勉強方法が多数派でした。過去問は人事院に取り寄せることができますがすぐに手に入るわけではないので余裕をもって取り寄せる必要があります。

1
次試験

2
次試験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

専門多肢試験当日に意識したこと・アドバイス

- ・ 解き終わってからかなり時間が余ったので、マークミスが無いか、丁寧に確認しました。試験時間は十分にあり、満足ゆくまでじっくり考えられるので、ここで確実に得点を確保しておくのが良いかと思います。
- ・ 専門多肢試験中、退出する人がかなりいたことに驚いた。制限時間には相当の余裕があるので、見直しを終えたら退出して次の試験の準備をすることもひとつのやり方かと思う。
- ・ 時間が余るので、見直しを徹底した。昼休みには、友人と大学の構内を散歩してリフレッシュした。
- ・ 専門多肢試験は十分に時間があるので見直しの時間が確実に取れると思います。なので私は一周目に解いたとき、どこが違うと思ったのか・迷ったのはなぜか、などの自分の考えも必ずメモしておいて、あとで見返しながら見直ししていました。
- ・ 勉強した内容を何も見ずに思い出す訓練（検索練習という学習法）をしていたので、本番の試験でも問題の答えを確実にアウトプットできた。
- ・ 試験が午後だと思っていたら午前にあり、昼休みに確認する予定だった内容を確認できませんでした。年によって違うかもしれませんが、例年専門多肢試験は午前中なので気をつけてください。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

第2次試験

第2次試験では、①専門記述式試験、②政策論文試験(大卒)、③政策課題討議試験(院卒)、④人物試験の3つの試験が実施されます。また英語試験のスコアなどを提出することで点数の加算がされる場合もあります。

第2次試験は2日に分けて実施されます。大卒の場合は、①②が同日に実施され、④人物試験は受験者によって日が異なりました。院卒者試験の場合は、①のみ全員同日に実施され、②、③は受験者によって日が異なりました。

なお、総合職試験の最終合格者は、各試験種目の成績を総合して決定されます。

< 専門記述式試験 >

専門記述式試験の森林・自然環境区分では、4科目の中から1科目を選択します。

1科目ごとに用意されている3つの問題から、2つを選択して3時間30分で解答します。選択科目は「森林科学に関する基礎」「国土保全に関する基礎」「自然環境・公園緑地に関する基礎」「木材等林産物に関する基礎」の4科目です。

科目の選択

今年の内定者は16名全員が**森林科学に関する基礎**を選択していました。大学の専門と重なっていたこと、森林・林業白書から出題されるテーマが多く、勉強が進めやすいと感じたこと、1次試験の専門多肢試験の対策が活かせることが選択理由として挙げられていました。

最初から「森林科学に関する基礎」に絞って勉強を進めていた内定者が多数でしたが、1科目に絞って勉強するのではなく、2科目の勉強を進め、本番の問題を見てから解く科目を決めたという内定者も2名いました。

選択理由

- まずは一次試験を突破しなければ意味がないと思っていたので、勉強時間はほとんど取れませんでした。そのため、一次試験の勉強範囲と内容が被るものにしました。
- 専門多肢試験で勉強していた範囲に合わせて2科目勉強しておき、当日の問題を見てからどれを選ぶか決めました。
- 大学の専攻が違ったこともあり、最初から科目を絞って勉強していました。周りの人への相談や、内定者の声、さらに過去問を見比べて絞る科目を選びました。森林・林業白書で勉強しやすい、という点も選んだ理由の1つです。
- 専門多肢試験に向けて勉強した内容が生かせるから。専門多肢試験の勉強を始めた当初から科目は決めていた。

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

勉強方法

1次試験後から重点的に対策を始めた内定者が多い傾向にありました。なお、1次試験の専門多肢試験の勉強がそのまま記述式試験の対策にもなるので、1次試験のうちからしっかり勉強しておくことをおすすめします。

過去問

- 5年分ほど過去問をみて出題形式や頻出テーマを確認しました。その後は頻出テーマを中心に自分で**予想問題**を作り、白書や実務必携を参考に解答を作成する作業を行いました。それを繰り返す中で、重要と思われるキーワードを覚えていきました。
- 1次試験終了後から対策を始め、過去問をベースに**解説書**を作成しました。専門記述試験では、1次試験対策でインプットした断片的な知識を体系化して、文章で表現できるようにする必要があります。そのため、解説書を作成する際には、[背景]、[現状]、[課題]、[必要な対策]、[対策がもたらす効果と留意点]などのように知識を整理しやすいようにまとめることを意識しました。こういったことを1次試験対策の時点で意識できていればより効率的だったと思います。
- ひたすら過去問に対する自分なりの解答を作っていました。その過程で頻出分野などが見えてくるので、その分野については特に念入りに森林・林業白書を勉強しました。また、分からない用語は調べて自分なりの噛み砕いた説明ができる状態にしていました。本番でも単語を説明する問題が出たので役立ちました。
- ある程度の文章を書くのは苦手ではないタイプだったので、過去問を一通り眺めて問題の形式だけ確認した後、一問だけしっかりと解答を作る練習をして、周りの人に見てもらいおかしな文章でないか確認してもらいました。

森林・林業白書

- 出題範囲は基本的に森林・林業白書からなので、過去問の傾向から出題されそうなテーマを予測しつつ、白書を読み込むのが良いと思います。
- 個人的に「森林科学に関する基礎」は『森林・林業白書』を一通り頭に入れておけば十分な対策ができる問題が多い印象でした。
- 記述式の過去問には答えがないため『森林・林業白書』を徹底して読み込み、正解につながるとされる要素をきちんと書けるようになるまで練習しました。こちらも過去問の傾向を分析し、5年分を勉強しました。また、勉強の過程で得た知識はノートにまとめ、後で確認できるようにしました。「自然環境・公園緑地に関する基礎」についても『環境白書』などを使って同様に対策したほか、大学院の先生にも指導していただきました。

その他書籍

- 林業関係で当時人気だった「森林列島再生論」という本を読んでおいたことが役に立ちました。
- 森林・林業関係の書籍を10冊ほど読み、専門多肢試験の勉強で学んだ知識に肉付けをしました。時間がかかるので実際に解答を書く練習はせず、出題されそうなテーマを挙げて頭の中でその歴史や現状、具体例、課題、解決策等を一通り思い浮かべられるようにした。

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

専門記述試験当日に意識したこと・アドバイス

- ・一次試験後に勉強を始めたが、研究室が忙しい時期であったこともあり当日に勉強不足を痛感し苦しかった。専門多肢試験勉強による対策だけでは足りないので、記述試験の練習も早めに始めておくことをおすすめする。
- ・書き始める前に問題用紙等に自分の書きたいことをメモ書きみたいに書いておくと、1から書き直すという事にならないので、おすすめです。段落ごとに書き終えたら見直して誤字脱字がないかに気をつけました。
- ・勉強していなかった範囲から出題があり、なんとか解答はできたがかなり肝を冷やした。どんなに準備していても分からない問題は出てくるので、そういった際に諦めず冷静に対処できる素養が重要だと思う。
- ・情けないことですが、手書きで文書を作成するのが久々だったので、早い段階で手が痺れてしまいました。また、試験会場もかなりの暑さだったため、痺れと多湿の中で長時間書くのは大変でした。試験会場では何があるかわからないので、勉強以外の対策も重要です。
- ・簡潔な回答を意識するあまり、解答スペースの余白が多くなってしまい、手応えの割にあまり点数をもらえませんでした。書くべきか迷ったら書くようにして、最大限解答欄を埋めることを意識すると良いと思います。
- ・想定していなかった問題もありましたが、説明会で気になって聞いた分野だったため解答できました。勉強ももちろん大事ですが、やはり説明会で聞いたお話や、ニュースで見た話など、日頃からアンテナをはることも大事だな…と強く感じました。
- ・本番ではA3裏表の解答用紙が2枚配布されます。ドット入り罫線が引かれているのみなので、文字数は自分で調整できました。
- ・当日時間配分を間違えてしまい、書ききれなかった問題がありました。数日引きずってしまったので、長い時間をどう使うのかを事前に決めておくことをおすすめします。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

< 政策論文試験 >

大卒程度試験の受験者のみが受験する試験の一つです。

試験時間は 2 時間 で、1 題の論文試験を解答します。政策の立案に必要な能力、判断力、思考力等について問われる試験です。答案作成時の参考資料には英文も含まれます。

対策・アドバイス

- ・過去問を用いながら解答時間と文章構成を意識して演習を繰り返しました。試験本番は時間がかなり厳しかった印象があります。
- ・特に準備はしなかった。当日用意された資料がかなり充実していたので、資料から読み取れることを素直に書くことを心がけた。
- ・問題の形式と時間を確認する程度でほとんど何もしませんでした。
- ・政策論文は過去問を見てどんなこと書こうということを頭の中で練習しておく、本番も書きたいことをすぐに思い浮かべることができると思う。
- ・政策論文試験の準備では、色々なテーマについて論文を書く練習をしておくといいと思います。色々なテーマについての自分の考えや解決策を探することで試験当日に全く違うテーマだったとしても応用がききやすくなります。
- ・過去問を解いて、友人に見せて添削してもらっていた。自分自身でも、読み返して気づいたことを逐一メモして、文章構成などを修正していった。

< 政策課題討議試験 >

院卒試験の受験者のみが受験する試験です。6 人 1 組で与えられた課題について討論します。流れは以下の通りです。(2023 年度の場合です。コロナ禍で変更になる可能性があります。)

- ①課題と参考資料(英語含む)が印刷された冊子を参考にして、課題への賛否とその理由についてのレジュメを作成(20 分)。
- ②部屋を移動。グループ全員分のレジュメのコピーが配布され、黙読(2 分)。
- ③各自、自分のレジュメ(自分の意見)についてプレゼン(1 人 3 分)
- ④討議(30 分)
- ⑤討議内容を受けて、自分の意見をまとめる(5 分)
- ⑥再度自分の意見を発表(1 人 2 分)

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

対策・アドバイス

- ・これといった対策はしていませんが、建設的な姿勢で議論に臨むことと、自分の意見を簡潔に伝えることを意識しました。
- ・大学のキャリアセンターで政策課題討議試験の対策会が度々開催されていたので、積極的に参加するようにしていました。ある程度場慣れしておくことが重要だと思います。
- ・レジュメ作成は制限時間が短く、ぶっつけ本番だと失敗する可能性が高いです。大学の対策会等に何度か参加して、時間内に簡潔かつわかりやすいレジュメを作成できるようにしておくと思いいます。
- ・3度ほどグループディスカッションの練習をしました。是非型の課題で練習をしていましたが、練習の時は賛成派・否定派どちらの側の書き方も練習することで、メリット・デメリットを考えるのに役立ちました。
- ・当日は全員が同じ側の意見だったのでどう議論を進めていいかわからなくて焦りました。珍しいパターンかもしれませんが、その場合の議論の仕方なんかもシュミレーションしておくと思いいます。
- ・最後の2回目の口頭発表前に、まとめる時間があまりなくて焦ったのを覚えています。自分の中でまとめ方をあらかじめ決めておくべきでした。
- ・最初にレジュメを作成する時間がありますが、レジュメを簡潔に作成できている人は印象が良かったです。また、相手の意見と自分の意見を照らし合わせて相手の意見のほうがいい場合は、自分の意見を押し通さずに素直に相手の意見に考えを改め議論が進むように意識していました。
- ・試験の流れを確認することと、レジュメの書き方を事前に決めておき、当日のイメージを持って臨むようにしました。

<人物試験（人事院面接）>

受験者1人に対して面接官3人で行う、15～20分程度の面接試験です。面接カードは、事前にインターネットからダウンロードして記入します。当日は原本とその写しを提出し、それを基に面接試験が行われます。面接試験は対面形式で行われます。入室の方法など基本的な所作を事前に調べておくことを忘れないようにしましょう。

対策

対策は主に、面接カードの準備と面接練習の2つに分かれます。1次試験後に用意を始めた内定者が多い一方で、3月初旬から準備を始めた、なんだかんだ準備に3ヶ月ほどかかった、といった声も見られました。それぞれ工夫を行って準備を進めていましたが、どの内定者にも共通していたのが、

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

他人から意見をもらうということです。恥ずかしがらずにアドバイスをもらうことで、自分では気がつかない改善点も見つかるはずです。また、民間就活での経験がそのまま面接対策につながるようです。時間や余力がある方は民間就活にも挑戦すると良いでしょう。

- 友人や先生方に協力してもらい準備を進めました。当日は主に面接カードの内容を深掘りされたため、しっかり対策してください。個人的に面接時の仕草や話し方よりも内容を重視されているように感じました。
- 友人や先生と何度も面接練習をした。面接練習は1人でコツコツやるより絶対に他人とやったほうがいいです。
- ハローワークの面接練習を3回申し込み、面接カードの添削やアドバイスをもらいました。
- 自己分析を入念に行い、短い文字数の中でどうすれば自分を伝えられるかを意識しました。志望動機では国家公務員を目指した必然性を明確にし、自己PRでは公務員として自身のもつ力をどのように活用できるかを伝えるような構成にしました。また、自己満足にならないためにも、友人に面接カードの添削や面接練習をお願いし、客観的な意見をもらいました。
- 面接カードは大学のキャリアセンターで添削してもらいました。その後はキャリアセンターの模擬面接を何度か利用してそれなりに準備したつもりだったのですが、本番では予想外の質問をされたことで動揺してしまい、全くうまくいきませんでした。私は人事院面接が初めての面接だったのですが、もっと早いうちに本番を経験していれば、本命の面接で失敗するという事態は避けられたと思います。筆記試験対策で忙しいのはよくわかりますが、民間就活も経験しておくとなかなか後悔しないのではないかと思います。
- 準備には3ヶ月ほどかかった覚えがあります。何人にも見てもらうことが大事だと思いました。学内の講座にて面接練習だけお願いしていました。第三者の視点で見てもらうことに加え、身近な家族や友人にも見てもらい、自分の強みが伝わるような文章になるように直していきました。

当日のアドバイス

- ・試験本番は自分を飾らず、素直に自分の考えを伝えるようにしました。面接で1番重要なのは等身大の自分で臨むことだと思います。完璧な文章でなくてもいいので、自分なりの言葉で話せば面接官の方にも伝わると思います。
- ・面接練習を幾度も繰り返すうちに、自分が本当に伝えたいポイントが何なのか絞られていく感覚があったので、何度も繰り返し練習することが大事だと思います。
- ・なぜ国家公務員総合職なのか、入省したらこれまでの学びをどのように活かすどのように貢献できるのか、ということのを深掘りされるので明確な答えを用意しておいた方が良いでしょう。面接の前後はとにかく待ち時間が長く、会話も禁止なので本など用意しておく方が良い。また、前の人の面接が終了後、自分で時間を計って入室するので腕時計は持って行ったほうが安心。
- ・面接カードに面接官が引っかかるような書き方をした結果(成果の主張内容と体験があっていないといったことだったと思います)、説明を求められたので、質問に丁寧に答えることと、自分の主張に穴がないようにした方がいいと感じました。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

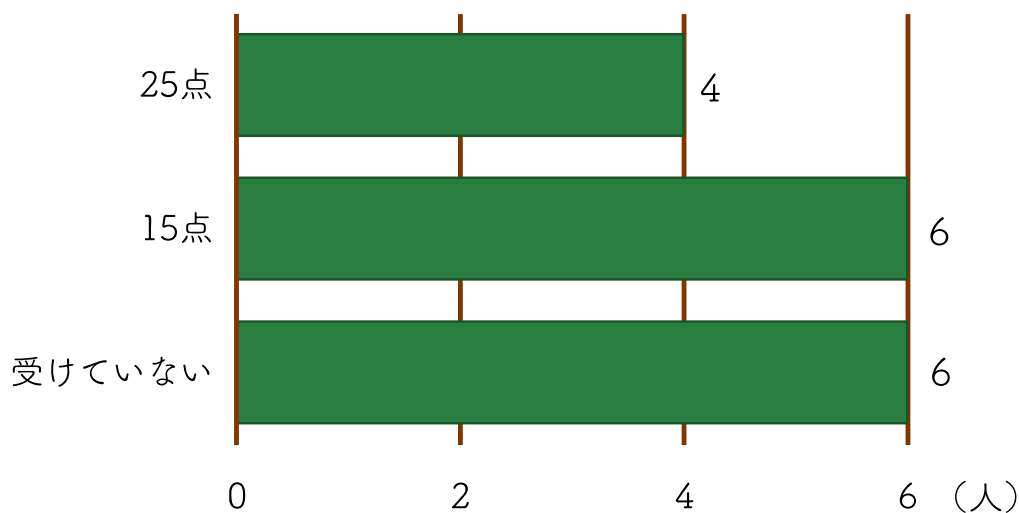
内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

< 英語試験による加点 >

2次試験の人事院面接時に民間の英語試験のスコアを提出すると、最大 25 点の加点を受けられます。必要なスコアと加算点に関しては、国家公務員試験採用情報 NAVI の受験案内でご確認ください。

今年は過半数の内定者がこの英語試験による加点を利用していました。試験の有効期間も長く、加点の基準も厳しいものではないため、時間があるうちに試験を受けておくとよいでしょう。

英語試験による加点



1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

官庁訪問

国家公務員採用試験の最終合格=採用ではありません。志望省庁の職員として働くためには、この官庁訪問を通して、内々定や内定を得る必要があります。

官庁訪問では、受験者が志望する省庁を訪問し、1日の間で各省庁の第一線で活躍されている職員から業務説明や面接を複数回受けます。受験者はそれを踏まえて、自分がやりたい仕事は何か、どういう職場で働きたいか、自分のやりたいことができる省庁はどこなのかなどを考え、自分の能力や思いを伝えてアピールします。

国家公務員採用試験に合格し、国家公務員の素質があると認められた受験者が、どの省庁で働くことで自分のやりたいことができるのかを判断する、言わば志望省庁と受験者のマッチングの場です。受験者にとっては、最後の、そして最難関の壁とも言えるでしょう。

今年の内定者がどのように官庁訪問を乗り越えたのかをまとめました。官庁訪問は第2次試験の合格発表直後に始まるため、事前に情報収集をしておくようにしましょう。

<官庁訪問のスケジュール>

官庁訪問は全4クールに分かれています。日程が進むにつれて訪問できる省庁は減っていくため、最初の第1クールでしっかりと業務説明を受け、省庁理解を進めておく必要があります。

第1、第2クールでは、同一省庁への訪問は3日間のうち1回まで(同一省庁に2回訪問不可)となります。そして、第4クールでの訪問を以て、内々定となります。

官庁訪問は既合格者向けに6月上旬にも実施されますが、林野庁総合職技術系の既合格者向けの官庁訪問は例年実施されていません。

6月													
8	9		12	13	14	15	16		19	20	21	22	
木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	
最終合格者発表		休み	第1クール			第2クール			休み	第3クール			第4クール
													内々定解禁

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

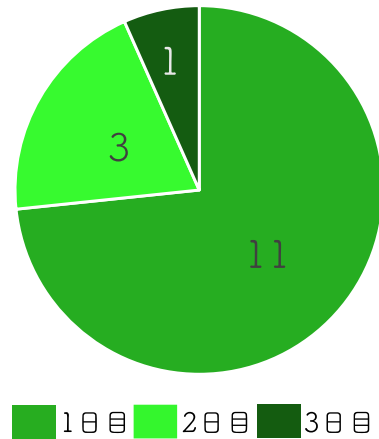
< 訪問日 & 面接方法の選択 >

第1、第2クールでは、同一省庁への訪問は3日間のうち1回まで(同一省庁に2回訪問不可)となります。すなわち、受験者は、何日目にとどの省庁を訪問するのかを決めなければなりません。今年の内定者の訪問日は右の通りでした。各日程で受け入れ人数に限りがあるため、希望通りの日程で訪問をするためには予約を早めに行うと良いでしょう。

また、第1クールでは、面接形式(オンラインまたは対面)を選ぶことができます。下に、今年の内定者の選択者数と感じたメリットをまとめました。それぞれのメリットがありますので、自分が力を発揮できると感じる方を選択し臨むようにしましょう。

また、オンラインと対面のどちらを選ぶ場合でも、面接における礼儀作法は事前に確認しておくようにしましょう。

第一クールの訪問日(人)



1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

対面 12名

- ・林野庁全体の雰囲気を感じられた
- ・直接の方がリラックスして臨めた
- ・相手の反応が見やすく、また自分の表情や手振りも伝わりやすかった。
- ・自分が働いている姿を想像し、自らを鼓舞できた。
- ・移動中にも職員さんと少しお話しできた。
- ・第2クール以降は対面のため、本庁までの経路や雰囲気を確認することができた

オンライン 4名

- ・移動のコストを抑えられたことが良かった。
- ・宿泊費や交通費を削減できた。
- ・長距離移動で疲れることがないので、体力的にも精神的にも余裕をもって挑めた。

地方からの官庁訪問

地方から官庁訪問に参加する際には、移動費や宿泊費等は実費で負担しなければなりません。今年の地方からの参加者は、5~7泊、5~10万円程度の費用がかかっていました。予約時期は1ヶ月前から公務員試験最終合格発表後までに行っていた人が多く、第4クールに進めることがわかった時点で予約を取った人もいました。

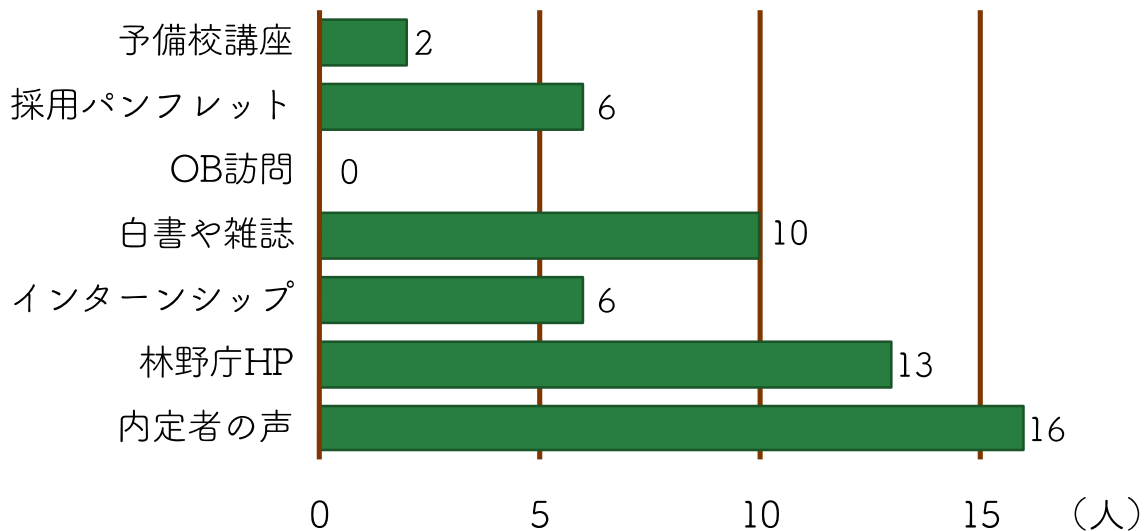
アドバイス

- ・事前に説明会等で質問を行い、官庁訪問のスケジュールを把握しておくとうれしそう。
- ・官庁訪問の最終日は遅くなる可能性があるため1泊多めにホテルを取っておいた方が精神的にも体力的にも楽。
- ・浅草が意外とアクセスがよく、費用も抑えられた。

< 事前準備 >

官庁訪問は情報戦とも言われています。下のグラフのように、内定者はさまざまな手段を使って情報を集めていました。また、内定者全員が、この「内定者の声」で官庁訪問への情報を集めていました。本冊子でも、内定者がそれぞれどのように対策をし官庁訪問に臨んだのかをまとめましたので、これを読んでいる皆さんのお役に立てれば幸いです。

官庁訪問へ向けた情報収集



- 身上書作成の上で最も重要視していたのは、志望動機を明確にすることです。森林や林業に興味を持ったきっかけから、なぜ自分が林野庁に入庁したいかを誰が読んでもわかるような文章構成にすることを心がけました。正直なところ、学生時代に誇れるようなことは経験していなかったので不安もありましたが、自身の数少ない経験と志望動機や自身の長所への繋がりを意識して作成しました。
- 面接では理想の解答を丸暗記するのではなく、論理の道筋だけきちんと押さえ、あとは自分の素直な気持ちを話すようにした。特に誰かに見てもらうことはせず、ビデオ撮影を活用して練習した。身上書はひと月前ほど前から準備を始め、家族に数回添削してもらった。
- 身上書は5月末から今までの面接カード、企業のESを参考に作成した。身上書を色んな方に添削してもらおうと自分の意見がわからなくなってしまうが、これだけは譲れないというものをあらかじめ決めておくと内容の軸がぶれないと思います。
- 身上書に対して、「なぜ？」を解き続けること。面接は、身上書を見て主に行われます。この身上書を見て、自分ならどこを質問するかを考えて準備しました。
- 身上書は人事院面接終了後から準備を始め、親に添削してもらいつつ作成しました。その後は、林野庁の内定者の声や大学のキャリアセンターにある官庁訪問体験記等を参考にしつつ、想定される質問を列挙し、それについての回答を練るといった準備方法をとりました。面接は準備が8割と言われます。これくらいで大丈夫だろうと高を括らず、徹底的に準備してください。そうすることで緊張が和らぎ、自信をもって面接に臨めます。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

- 繰り返し練習をしつつ、自分が身上書に書いた内容のキーワードだけ覚えるようにしていました。面接本番は質問が来るごとに、そのキーワードを使ってその場で文章を使って答えるようにしていました。完全暗記よりも、その方が素の自分を出せる気がします。
- 身上書の提出日を勘違いしており、急いで(6時間ほど)準備した。
- 身上書は2次試験が終わった後、約2週間で準備した。どの一文を拾われても、その背景や具体例、詳細等を膨らませて語れるようにした。添削は特にしてもらわなかった。
- 内定者の声に書いてあった質問には自分なりに答えられるように回答を用意し、他の職業と比較して、なぜ林野庁で働きたいのかを説明できるようにしておきました。

<官庁訪問当日>

- ハキハキと要点を絞って話すことを心掛けました。官庁訪問という貴重な機会と話したいことはたくさんあるのですが、時間が限られているので、自分だけが話すのではなく面接官の方とのやりとりの中で自分の考えが伝わるように意識しました。
- 1番意識していたのは、自分を飾らないことです。面接官の方に良い印象を与えることも大事だとは思いますが、等身大の自分で面接に臨むことの方がより重要だと思います。リラックスするというのは難しいとは思いますが、様々な経験をされた方と直接お話できる機会だと思って前向きに臨めると良いと思います。自分の話に対する職員の方の考えを聞くこともできるので、官庁訪問の中で林業や木材産業に関して様々なことを考える良い機会になりました。
- 林野庁の官庁訪問は長時間拘束されるようなことが無く、時間も指定がありました。そのためかなり余裕を持つことができました。官庁訪問は自分をアピールする場でもありますが、それ以上に知識を得られる機会です。精一杯臨んでください
- 自分の研究について話す機会が思ったより多かったのでしっかり準備しておくとういと思う。
- 特に第一クールは逆質問の機会が多いが、面接官もかなり気さくな雰囲気でお話ししてくださるので、質問はしやすいと思う。
- 自分は一度インターンシップに参加していたので、ある程度電車や省内の様子はわかっていたので落ち着いていられましたが、トラブルがあると焦ると思うので、特に地方の方はかなり時間に余裕を持って動くか、一度練習をしてみることをおすすめします。
- 特別の準備は何もしていませんが、あまり緊張しすぎず私らしい私を評価していただく、それでダメなら仕方ないという気持ちで素直にハキハキと会話をすることを心がけました。
- これまでの集大成として全力で挑むことを意識しました。どんなに準備していても落ちる時は落ちるので、全滅した時の覚悟も決めていました。私は林野庁面接の直前に控室で併願の省庁から不採用のメールが届き失神寸前でしたが、それも無理やりプラスに捉えることで面接では林野庁に一直線で向き合うことができました。官庁訪問は面接官との相性なども関係してきます。結果に一喜一憂せず、冷静に現実と向き合うとともに、自分を信じて頑張ってください。
- 反省点は集合時間に対して庁舎に到着したのが早すぎたことです。集合時間の30分以上前に庁舎内に入ったため、まだ会場の準備が終わっておらず少し気まずかったです。
- 自分の考えについて、職員の方とディスカッションをするという気持ちで臨んだ。自分の森林や木材に対する思いに頷いてもらえた際はとても嬉しかった。面接ではあるが、楽しもうという気概が大事

- であるように思う。また、官庁訪問の過程で自分の考え方に変化があったため、予め用意した考えに固執しすぎないように注意した方がいいと思う。見栄を張らずに自然体で臨むことを意識しました。
- 素の自分で挑む、というのは意識していました。もちろん緊張もあると思いますが、ある程度素で挑んでみることはおすすめです。そのときのあたたかい反応を受けて、自分もここに仲間入りしたい…と私は強く思ったのを覚えています。それから、とにかくここに入りたいんだ！という気持ちは素直に前面に出すように心がけていました。
 - 官庁訪問中に名刺を貰うことがあったので、名刺をもらう際のマナーを確認したほうが良いと思いました。また、官庁訪問中は職員の方と話をする機会なのでできる限り会話の様な流れになるように意識して話していました。
 - 民間を併願しており、30分～1時間の面接に慣れていたため、当日15～20分の面接がとても短く感じました。短い時間の中で、自分がどれだけ林野庁で働きたいのかを、実体験をもとに自分の言葉で伝えるのが大切だと思いました。

印象に残った質問

- ・自分の研究について（内容や対象地に関する質問）。
- ・出向など「林野庁でやりたいこと」はできない期間があるがどう思うか。
- ・あなたの考える循環型産業とは？
- ・木材の利用の促進について、直接建物を木造化できるわけではないが、どうするか。
- ・国家公務員となる上で必要な心構えとは何か。
- ・林野庁と環境省の違いは何だと思えますか。その上でなぜ林野庁なのですか。
- ・（大学での専攻が農学よりだが、）大学での研究はここで終わりになるけどいいのか。
- ・身上書に書かれていること以外の興味がある政策は何かとその理由。
- ・国有林をフィールドにやってみたいこと。
- ・全世代に対して木を伐って使って植えるサイクルを知ってもらう方法。
- ・（一般職ではなくて）本当に総合職でいいのか。
- ・（既に内定をもらっているようだが、）どうして就職活動を続けているのか。

以上、内定者それぞれが官庁訪問へ向けてさまざまな用意を進めていたことがお分かりいただけたかと思いますが。公務員採用試験の集大成ともいわれる官庁訪問を終えて、特に準備していたよかったこと、予想とは異なり必要なかったかもしれないという点をまとめました。あくまで個人の意見ではありますが、準備の優先順位を付ける上で参考にさせていただけると幸いです。

準備しておいてよかったこと

- ・面接練習を重ねたことで緊張しすぎずに本番を迎えることができた。話す順序やスピード、声量などはいきなり本番で調整することは難しいと思うので、練習を繰り返した。
- ・身上書に記入した施策についてまとめていたノートがとても役立った。
- ・官庁訪問当日の移動ルートを確認しておく。乗り換えや出口の番号などは頭に入れておくと余計な不安が少なくなると思った。
- ・森林・林業に関する書籍を多数読んだこと。様々な著者の問題意識に触れたことで森林・林業の抱える課題への理解が深まり、志望動機や入庁後にやりたいことを考える上で大きく役立った。
- ・予想していたよりも質問できる時間が長かったので、もっと質問を用意しておけば良かった。
- ・自分の長所・短所を裏付ける具体的なエピソードは準備しておいた方が良い。
- ・なぜ林野庁で働きたいのか、林野庁に入って何をしたいのか、この2点を明確にイメージできていると関連した多くの質問に自信を持って答えられたと感じた。

準備しなくてよかったこと

- ・**原稿を作らなくてよかった**です。事前に用意しすぎてしまうとあまり感情のこもっていない返答になる恐れがあったので、基本的な質問以外は官庁訪問本番で自分が素直に感じたことや考えたことを話そうと思っていました。ただし、全く答えを用意せずに官庁訪問に臨むのは良くないので、最低限自分の話したいことは決めておいた方が良いと思います。
- ・**政策に関する知識を集めていた**のですが、面接でそれほど深く話しませんでした。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
イ
ー
ル

番外編

インターンシップ

林野庁本庁と森林管理局でインターンシップに参加することができます。業務や職場の雰囲気を知ることができる機会であり、職員の方々との距離も近いいため説明会では聞くことができない深い話や職場における日常に関する話など貴重な話を聞くことができ、進路選択において参考になります！申し込みに関しては、以下の林野庁のHPを参照してください。

職場体験プログラムについて(林野庁)

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kanri/saiyou/internship.html>

林野庁のインターンシップに参加しましたか？



- ・林野庁本庁と森林管理局両方に参加していた方もいました。
- ・森林管理局のインターンシップ参加者のうち3人は森林管理署におけるインターンシップに参加していました。

インターンシップの参加理由・感想

2月に本庁・管理局・管理署のすべてのインターンに参加した（どれくらいの倍率かわからずとありあえずいろいろ参加申し込みをした結果、すべて通っていた）。白書など紙面上でしか知らなかったものを実際に見たり、職員の方がどのように働いているのかを体験したりでき、自分が林野庁で何をしたいのかが明確になった。特に管理局・管理署では、国有林に連れて行っていただいたり実際に使われているアプリを触らせてもらったりと貴重な経験ができた。
本庁の配属先は、以前より森林計画に興味を持っていたことから計画課を選んで申し込んだ。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
フ
ィ
ー
ル

本庁のインターンに3年生の夏に参加しました。

インターンを通じて、官公庁で働くという選択が自分の中に生まれ、試験勉強を始めるきっかけになったので、参加して本当に良かったと思っています。

配属先は、事前に提出した志望動機書に興味分野をいくつか記入したのでそれに近い部署に配属されました。

本庁でのインターンシップに3年生の夏に参加しました。このインターンシップが志望の大きな動機になり内定をいただくことができたので参加してとても良かったと思っています。

憧れてはいるけれど官僚になるなんて自分には難しいんじゃないか、と不安があり志望を決めきれないでいましたが、庁内で最も忙しいとされる部署で1週間受け入れていただいたにも関わらずとても丁寧に指導して稚拙な意見でもしっかり一度聞いて指導してくださる雰囲気を感じ、この素敵な先輩たちのもとでならずと働きたいと思いを固めました。

配属先の決め方は、明確に学生が学びたい内容が決まっていればできるだけそれに沿う方針でいいと思うのですが、そうでなければ年齢の近い先輩がいる部署だと緊張がほぐれより積極的になれる学生が多いのではないかと感じます。

・学部3年の夏休みに参加しました。配属先は決められていました

実際に林野庁の雰囲気を肌で感じられるのでとても良かったです。説明会ではわからないところまでわかりました。

・漠然としか理解していなかった仕事内容や雰囲気を具体的に知ることが出来た。

・国有林での現場業務のイメージをつかめたことが良かったです。林業白書で知った事柄が実際どのように運用されているのか知ること、林野庁に対する志望が高まりました。また、職員の方とお話する機会が多かったので、働いている方から林野庁の良いところや直していくべきところを知ることができてよかったです。

OB 訪問

OB 訪問では、実際に働いている林野庁職員の方からお話を聞くことで、入庁してからのキャリアを具体的にイメージすることができるようになります。今年の内定者は、大学の公務員講座の受講や、林野庁の人事担当者の方にメールを送ることで機会を得ていました。職員から直接話を伺うことで、雰囲気や仕事内容への理解が深まり、面接でのミスマッチを防ぐことができます。ぜひ積極的に行うことをおすすめします。

説明会

各種説明会が定期的で開催されています。対面とオンラインどちらの説明会も開催されるので、自分の都合に合わせて参加することが可能です。

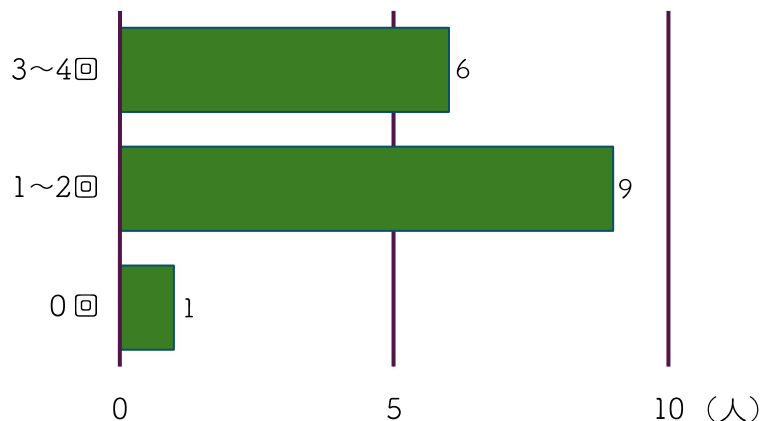
林野庁説明会

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kanri/saiyou/setumeikai.html>

説明会の参加回数は？

参加した感想

- 霞が関で行われる対面の説明会は、オンラインよりも質問がしやすく気さくな雰囲気なのでおすすめ。
- 説明会は参加した方が良いと思います。名前を覚えてもらうのもとても嬉しいです。
- 業務内容の理解だけではなく、モチベーションの維持にもつながるため、積極的に参加した方がいい。参加する際には、自分が林野庁で働いている姿を想像すると、より深い質問をできるようになると思う。
- 業務内容について網羅的に説明してくださるので、1度は聞いておくと良いと思います。
- 対面・オンラインどちらもの説明会に参加させていただきましたが、対面の方が質問しやすくおすすめです。3月にあった総合職中央セミナーは各地方で開かれていることもあり参加しやすかったのと、自分のモチベーションもとても上がった説明会なので参加をおすすめします。
- 特に周りに国家公務員の先輩や国家公務員を目指す同期がいない方は情報面で不利にならないよう説明会には参加した方が良い。



より良い説明会となるためのアドバイス

- 気構えずに、見分を広げる意識で参加するとよいと思います。興味を持ったことや疑問はメモしたり質問すると良いと思います。確実に官庁訪問で役立ちます。
- ただ漠然と説明を聞くのではなく、何か1つは質問しようという心構えで聞くようにすると、内容も頭に入ってくると思います。また、事前にできる限りの情報収集をして、ある程度の予備知識を持った状態で説明会に参加した方が理解度が高まると思います。
- せっかくの機会なのでとにかく沢山質問することをおすすめします。それから毎回違う方にお会いできるので、同じ質問に対してでも回答の切り口が違うなど、自分の考えを深められる良い機会になりました。なので、一度だけでなくタイミングがあるなら何度でも参加すると良いと思います。
- 定員のある説明会に参加することができなかったので採用情報ページを定期的に見て把握することが大切だと思いました…

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

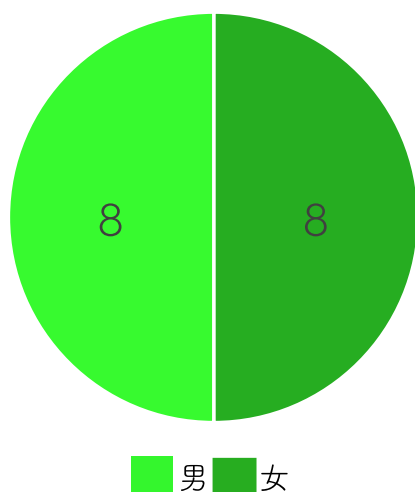
内
定
者
プ
ロ
フ
イ
ール

内定者情報

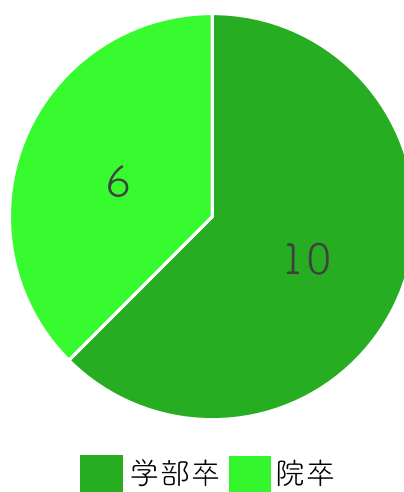
基本情報

今年の内定者 16 人の基本情報をまとめました。年によって採用される人数は異なりますが、林野庁では最終学歴や出身、席次に関係なく人物本位の採用を行っています。内定者の詳細なプロフィールは 31 ページ以降をご覧ください。

男女比 (人)



最終学歴 (人)



1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

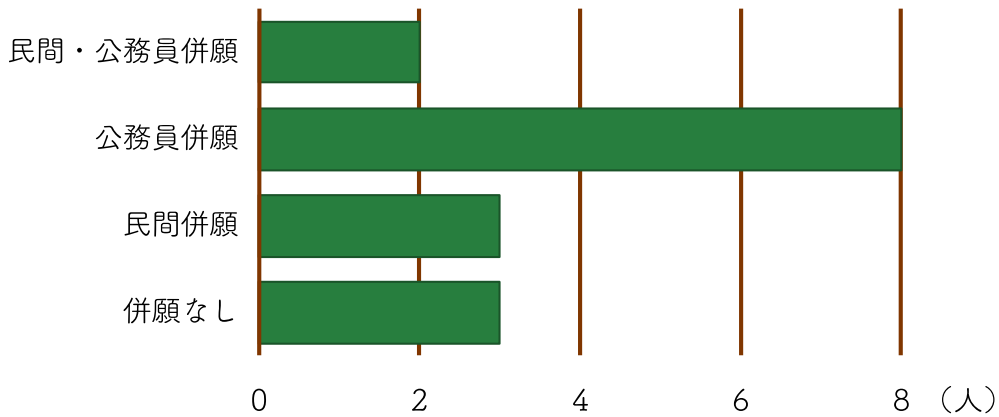
内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

出身大学/大学院



就職活動では、将来を左右する重要な選択を迫られます。多くの選択肢があり、さらに時間も限られている中で、自分に合った就職先はどこか、決断をしなければなりません。今年の内定者も、悩みに悩んで就職活動を進めていました。内定者に各業界を志望した理由、また、その中で林野庁を選んだ理由についてアンケートをとりました。ご自身に合った最善な進路選択ができるよう、応援しています。

併願状況



< 公務員併願 >

国家一般職

- 林野庁で働きたかったので、総合職・一般職どちらかで採用してもらえるよう併願しました。
- 森林保護に携わることのできる林野庁の一般職を志望しました。広いフィールドで現場での作業を経験できるところに魅力を感じていました。しかし、林業の施業現場や製材工場を見学したことで、林業従事者や木材産業従事者の生活を支える仕事に携わりたいと強く感じるようになりました。支援制度の整備や運営に取り組みたいと思い、総合職を志望しました。
- 地元が豪雨で被災し、復興活動に参加したことが林野庁を目指すきっかけになりました。また、高校から林業を専攻しており林業職の公務員に強い憧れを抱いていました。そこで広大なスケールでより根本的に林業に携わることのできる林野庁の総合職を志望しました。
- 森林の管理や保全、利用を通じて社会問題の解決に貢献したいと考え、志望していました。林野庁の総合職に決めた理由は、政策の企画・立案に携わること、現在、そして将来の全国の森林・林業の保全と発展に大きく貢献できると考えたからです。
- 国家公務員になりたいという気持ちが元々強く、転勤して日本を見て回りながら、人のため・未来のために必要な試みを考えていける点に魅力を感じていたため一般職も併願していました。しかし、その中でも現場を見て回り、その上で必要だと思った政策立案に携われるという点で、林野庁の総合職が最終的な第一志望になりました。林野庁を志したのは、説明会で聞いた「国有林という

土地をもち、自身も林業経営者として政策を考える」とのお言葉が自分の心にストンと落ちたのが決め手です。

都道府県庁

- 大学進学を機に静岡県に移住し、身近にある自然豊かな山林を守っていききたいと思い、静岡県庁の林業職を志望しました。また、インターンシップに参加して県の行っている様々な治山対策の現場を見学して治山の重要性を学び、災害に強い森林づくりに貢献したいと考えていました。しかし、都道府県庁では対象となる地域が限られており、より広い視点で森林行政に携わりたいと考え、林野庁の総合職を志望しました。
- 地元の震災や豪雨などを経験して何か林業という分野から恩返しをしたいと感じ志望していました。しかし全国的にも自然災害は多発しており、林野庁でも林業を通して地元にも何か貢献できると感じました。林野庁だからこそ経験できることも多いと感じ総合職に決めました。
- 森林の管理や林業に携わりたいと考え、県庁も志望していました。林野庁の総合職に決めた理由は、全国規模の森林・林業全体が抱える課題の解決に取り組んでいけると考えたからです。
- 学生時代に触れた北海道の大自然を適切に管理して将来世代に残していきたいと思ったのが率直な理由です。一方で、特定地域だけでなく日本全体の森林保全に貢献したいという思いが強かったため、林野庁を志望しました。林野庁であれば、ある地域でうまくいった事例を横展開するなどして、大局的な視点で課題解決に取り組むことができるだろうと考えました。

市役所

- 人の暮らしを支える仕事がしたいと考え、志望していました。林野庁の総合職に決めた理由は、大学で学んだ森林に関する知識を活かせることに加え、森林の管理や林業の発展に貢献することができれば多くの方の暮らしを支えることができると考えたからです。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

< 民間併願 >

コンサル・シンクタンク

- 人間と森林がお互いに利益をもたらすような社会を作ることに関与したいと思ったため、環境コンサルタント企業を志望した。林野庁総合職では日本全体、世界全体という大きなスケールで人間と自然の共存社会を考えることができるため、総合職を選択した。
- ICT を用いた森林測量に強い興味があり、それらを行っている建設コンサルタントを志望した。ICT の現場での活用にも興味はあったが、国家公務員としてその普及に携わることにより魅力を感じたため、林野庁の総合職に決めた。
- 省庁の分野の枠にとらわれず、政策立案に携われることを魅力に感じていました。最終的には省庁の内部から政策立案に携わりたいと思い林野庁に決めました。

木材系企業

- 木材の貿易に携わることができるため木材系企業を選びました。林野庁は木材だけでなくキノコなどの農産物も扱い幅広く貿易に携わることができるため林野庁に決めました。

建築業界

- 特定の方ではなく、全ての人を対象としたサービスを提供できると感じ林野庁に決めました。
- 治山系の知識を応用することができるため志望しました。業務内容がやや森林・林業から離れているため森林・林業に直接携われる林野庁を選択しました。

民間を志望してよかったこと、大変だったこと

- ・ 比較対象ができることで、自分が本当にやりたいことが明確になり、志望動機をまとめるのに役立った。スケジュール管理や情報収集には苦労した。
- ・ 民間の面接や ES を通して、本命である公務員試験での面接対策を早めからできた。公務員試験の勉強と ES の作成や面接対策の両立のため、忙しい期間が続いた。
- ・ 公務員よりも選考スケジュールが早期であるため、面接の心構えを予め学ぶことができた。面接に関するフィードバックがあったため、面接に関してある程度自信を付けることもできた。
- ・ 3月に公務員の筆記試験の勉強をしつつ民間企業の ES を作成するのが大変でした。また、3月は民間企業の説明会のピークでもあったため両立に苦労しました。
- ・ 面接慣れすることができた。年次が上の複数の方を前に自分をアピールする、というのは、なかなか場数を踏まないと慣れないと思います。

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

- ・他の業界を見ておくことで、林野庁への志望度がより一層高まりました。自分の体力との相談ではありますが、できるだけ多くの業界を見ておくといいと思います。

内定者プロフィール

今年の内定者に志望動機と就活の苦勞・失敗を聞いてみました！
また、自由に記述できる「ひとこと」欄を設けたので個人それぞれの思ったことや伝えたいこと等が書いてあります。

公務員試験のモチベーション維持や対策に活用してください！

〈内定者プロフィール〉

名前

〈志望動機〉

プロフィール写真

〈就活の苦勞・失敗〉

- ① 大学での専攻分野
- ② 学年(試験区分)
- ③ 趣味
- ④ 併願状況

〈ひとこと〉

〈官庁訪問第1ターム〉

- 1日目
- 2日目
- 3日目

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

R. 0.

<志望動機>

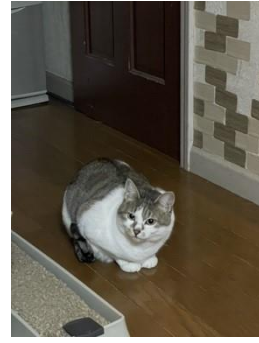
労働災害の防止や林業従事者の働き方の改善に関心があり、1つの事業体に所属して内側から働きかけるよりも、林野庁職員という立場から制度づくりを通じて全国に広くかかわるほうが自分の目指す未来を実現しやすいと思ったからです。

<就活の苦労・失敗>

モチベーションの維持と勉強時間の確保に苦労しました。インターンでお世話になった職員の方からのメールを見てモチベーションを維持しました。大学の講義がある間は勉強時間が取れず焦りましたが、数的数問だけでも解くようにしました。

<ひとこと>

勉強も大切ですが、大学生だからこそできる経験があるのだと思います。自分で選んで経験したことは、就職で自分を表現するときにも必ず役に立つのだと身をもって感じました。就職活動への不安ばかりに囚われず、自分が今のうちに経験しておきたいことに時間や労力を注いでほしいです！



- ① 森林工学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ アニメ鑑賞・ゲーム
- ④ 国家一般職、都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目
- 2日目 林野庁
- 3日目

K. 0

<志望動機>

持続可能な森林管理を実現したいという思いから志望しました。これを実現するためには、川上から川下の各段階における課題を解決していく必要がありますが、こういったことを国全体という大きなスケールで大局的な視点で取り組むことができるという点に魅力を感じました。

<就活の苦労・失敗>

専門外からの挑戦だったということもあり、筆記試験対策にばかり注力していた結果、面接対策が後手後手になり、官庁訪問前には精神的にかなり追い詰められていました。何事も時間配分は大切です。

<ひとこと>

自分が将来何をやりたいのかということを徹底的に考え抜いてください。その上で林野庁を志望すると決めたのであれば、気持ちがブレることなく長丁場の公務員試験を乗り越えることができますと思います。皆さんが納得のいく進路選択ができるよう応援しています。



- ① 環境創生工学
- ② 修士2年(院卒区分)
- ③ 料理・テニス
- ④ 他省庁、都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 環境省
- 3日目

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

K. A

<志望動機>

民有林の管理業務を経験する中で、日本が抱える森林・林業の課題を実感するようになり、将来的にはそうした課題の是正に取り組みたいと考え、林政の舵取り役である林野庁を志望しました。



<就活の苦労・失敗>

平日退勤後の試験対策には気力が必要でした。また、遠方からの受験でしたので、移動には気を遣いました。

<ひとこと>

私も受験時は「内定者の声」を拝見しましたが、ここに紹介されていることを全て完璧に準備できなくても、ポイントを押さえれば合格は可能と、振り返ればそう感じます。林野庁で働きたいけど試験が大変そうだからと躊躇してしまうのは勿体無いです。高い壁と思いつまず、志望する気持ちのある方はぜひ挑戦してほしいと思います。

- ① 生物学、集団遺伝子学
- ② 社会人(院卒区分)
- ③ 料理・小旅行
- ④ なし

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目
- 3日目

Y. K

<志望動機>

大学に入学し森林について学ぶ中で、森林や木材産業の未来を豊にできる仕事に就きたいと思ったことがきっかけです。社会における森林の存在感が大きくなっていく中で、官公庁の一員として森林に関わることに強い魅力を感じ、林野庁を志望するに至りました。

<就活の苦労・失敗>

居住している学生寮の居室にWi-Fiがないため、オンラインの面接や説明会で苦勞しました。ポケットWi-Fiを借りるなどして対応していましたが、何をすることも余計な手間がかかり辟易していました。

<ひとこと>

筆記試験や面接試験など、準備しなくてはならない試験が大量にあり、心が折れそうになることもあると思います。実際、私も何度も投げだしそうになりました。それでも、最後まで諦めないという覚悟を持って臨めば、自ずと結果はついてくると思います。志望者の皆さん、心から応援しています!!



- ① 木材利用学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ ツーリング・ドラム
- ④ 他省庁、国家一般職
民間企業

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 環境省
- 2日目 林野庁
- 3日目

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

S. K

<志望動機>

大学での講義や実習を通じて、森林の魅力が十分に伝わっていない現状を知りました。この経験から、森林を身近に感じられる社会を創りたいと思い林野庁を志望しました。森林環境教育などを通じて、森林の魅力を発信していきたいです。

<就活の苦労・失敗>

民間企業の ES 作成や面接対策、公務員試験の勉強など並行してやる事が多く、早い時期から準備しておくべきだと感じました。ES の自己 PR など絶対に必要な項目だけでも考えておくと後々楽になると思います。

<ひとこと>

自分は適度に休むことで気持ちを維持できました。また、身上書を10人以上の方に見てもらったおかげで、内容のまとまった身上書ができ、面接でも考えをまとめて話すことができました。なので、休むことと周りの人から意見をもらうことの2つを大事にしてほしいです。卒論など大変なことが重なるとは思います、頑張ってください。



- ① 森林科学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ サイクリング
- ④ 国家一般職、都道府県庁
都道府県庁、民間企業
独立行政法人

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 環境省
- 3日目

S. M

<志望動機>

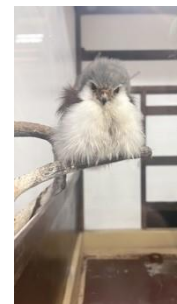
大学で森林について勉強したので学んだことが活かせる仕事があったこと、いずれにせよ生涯働くなら好きなことに関わるやりがいのある仕事をしたかったこと、インターンシップの雰囲気がよかったことが決め手でした。

<就活の苦労・失敗>

国家公務員試験のみの就活で内定をいただけたので失敗はないといえないのですが、全く併願をしなかったのもし不採用になっていたら院試の勉強もしていなかったので無職になるどころでした。当時は必死でしたが少しリスクだったと思います。

<ひとこと>

このコメントを読んでくださっているということは、林野庁を進路の選択肢に入れてくださっている方だと思います。国家公務員試験は期間も長く簡単ではありませんが、受験してみてもきちんと努力した人が報われる試験だと感じました。ぜひ試験・官庁訪問を乗り越えて頂いて、いつかお仕事で一緒にできるのを楽しみにしています。応援しています！！



- ① 木質分子素材制御学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ アイドルの推し活・小説
を読む
- ④ なし

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目
- 3日目

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

N. S

<志望動機>

政策の立案に関わり、日本の森林・林業に貢献できるという部分に魅力を感じ、志望しました。多くの人に森林や林業の魅力を伝え、日本の林業の発展につなげていきたいと考えています。



<就活の苦勞・失敗>

始める時期が遅いと、勉強する範囲を絞って勉強する羽目になり、精神衛生上良くないので早めから対策をすることをお勧めします。

<ひとこと>

試験前は、この試験対策で大丈夫なのか…、落ちたらどうしよう…など、かなり不安になると思います。追い詰めすぎると何にも手を付けられなくなるので、適度に趣味に走って休みましょう。みなさんが希望の就職先に行けることを願っています！

- ① 森林生態学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ 陸上(長距離)、読書
アニメ鑑賞
- ④ 国家一般職、都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目
- 2日目
- 3日目 林野庁

N. M

<志望動機>

大学での専攻分野とよく似ていたこと、自然に関わりたいという思いから志望しました。森林の多面的機能の重要性を学んだため、実際に経験を積むことができそうだと思います。

<就活の苦勞・失敗>

苦勞したことは筆記の勉強です。思っていたより試験範囲が広く、様々な分野の問題に取り組む必要がありました。マーク試験のみならず記述試験もあるので、文章を書く能力も必要であると感じ、もっと早くから計画的に取り組むべきだと思いました。面接は実際に対人で練習するのが良いと思います。

<ひとこと>

公務員試験の中でも難しいと言われている国家総合職に、自分が合格することができるなんて、実際に受験している最中も思っていませんでした。自分自身の軸をしっかり持って、自分自身を信じて努力することができれば、誰でも合格のチャンスはあると思います。体調には気を付けて、頑張ってください！



- ① 再生生態学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ 音楽
- ④ 国家一般職、都道府県庁、
市役所

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目
- 3日目

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

H. N

<志望動機>

大学で森林が社会に果たす役割やその重要性を学んだことで、森林資源の利用促進や適切な森林の管理に携わり、持続可能な社会の形成に貢献していきたいと考え、林野庁を志望しました。

<就活の苦労・失敗>

最も苦労した点は、面接練習や身上書の作成の際に、自分の思いや考えを適切な言葉や文章で表現することでした。結果的には、時間をかけて考えた言葉が、不安を感じる時に自分を支えてくれたのでがんばってよかったと思っています。

<ひとこと>

勉強を続けていると不安を感じることもあると思います。特に試験当日は緊張があるかもしれませんが、深呼吸をして、すべては貴重な経験だと受け止めて、楽しむ気持ちがあってもいいと思います。焦らず、自分らしさを大切に、頑張ってください。



- ① 森林生態学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ 散歩、絵を描くこと
- ④ 国家一般職、都道府県庁
市役所

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目
- 3日目

Y. N.

<志望動機>

元々誰かのため・未来のため働ける公務員に憧れがありました。森林を守り育むような仕事に興味があったことに加え、説明会でお聞きした「国有林という土地をもち、自身も林業経営者として施策を考える」のお言葉に感銘を受け、林野庁を志望しました。

<就活の苦労・失敗>

気持ちは林野庁を志望していた半面、私は専攻が異なることもあり、試験区分を決めるのが本当に遅くなってしまいました。そのため、勉強もどっちつかずになってしまい、もっと早くに決断すべきだったと反省しています。

<ひとこと>

専攻分野が違うことで悩んでいる方がいれば、ぜひ勇気を出して自分のやりたい気持ちを優先してみてください。諦めるのは本当にもったいないです！特に森林・林業白書はわかりやすくまとまっていたので、気になった方はまず読んでみてください。皆様それぞれの夢を陰ながら応援しています。体調だけには気をつけて頑張ってくださいね！



- ① 植物病理学
- ② 修士2年(院卒区分)
- ③ 茶道
- ④ 他省庁、国家一般職
都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 国土交通省(北海道農業)
- 3日目 環境省

1
次
試
験

2
次
試
験

官
庁
訪
問

内
定
者
情
報

内
定
者
プ
ロ
フ
ィ
ー
ル

HN

<志望動機>

公務員として公益に資する仕事に就きたいという軸と、自然と人との関わりを促進できる仕事がしたいという2つの軸で就職活動をしていました。特に林野庁では、自然を活用しながら守っていきける可能性に魅力を感じていました。

<就活の苦労・失敗>

私は就職活動を進めていく中で志望業界が変わりました。公務員の志望時期が遅れてしまったことに引け目を感じていましたが、OB訪問等で理解を深め、面接では熱意を伝えることができました。就活において『遅すぎる』ということはないと思います。

<ひとこと>

併願対策を進める上で、第一志望ではないし無駄になってしまうかも...という気持ちもありましたが、最悪の場合を想定して動いていたことで、少しばかり気持ちの余裕をもって林野庁の面接を受けることができました。研究活動や併願対策等、お忙しい日々が続くと思いますが、皆さんが後悔のない進路選択ができるよう応援しています。



- ① 生態学・計画学
- ② 修士2年(院卒区分)
- ③ バトントワリング
ボードゲーム
- ④ 他省庁、独立行政法人
民間企業

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 環境省
- 3日目

Y. H.

<志望動機>

幼少期から自然が好きで、漠然と自然保護に関わる仕事に就きたいと考えていました。そのような中、大学で木材利用について学んだことにより、森林を「守る」だけでなく「利用する」という視点で業務に携わりたいと考えられるようになったからです。

<就活の苦労・失敗>

就活で1番大変だったことは、モチベーションを維持することです。周囲に公務員試験を受ける友人がおらず、試験勉強や面接対策など不安を感じることも多かったです。

<ひとこと>

筆記試験対策も大切ですが、官庁訪問の対策も重要です。インターネット上では様々な情報が載っていますが、重要なのは素直な気持ちを伝えることだと思います。研究等で忙しいとは思いますが、自分のペースで頑張ってください。



- ① 木質科学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ 野球観戦・アニメ
- ④ 国家一般職、都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目
- 2日目 林野庁
- 3日目

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

K. F

<志望動機>

災害防止や地球温暖化といった観点から、森林の立木を管理していく大切さを大学で学びました。木材の利用や輸出を活性化させることで日本の森林における木を伐って使って植えるサイクルに寄与できると考えたため志望しました。

<就活の苦労・失敗>

エントリーシートに書く内容をもっと早い時期に決めて完成させておくべきだったと考えます。3月になると民間企業のエントリーシートを書きつつ、公務員試験の対策も行わなければならなかったのが大変でした。

<ひとこと>

5月頃までは民間企業に行こうと考えていたので民間企業の就職活動に注力していました。この経験によって、様々な業界を見ることができ、根拠と自信をもって林野庁を志望することができました。また、面接にも慣れることができたので官庁訪問ではとても役に立ったと感じます。今年は試験の日程も早まるそうですが、自分を信じて頑張ってください！



- ① 森林科学
- ② 修士2年(院卒区分)
- ③ 旅行、釣り、登山
- ④ 他省庁、民間企業

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 環境省
- 3日目 国土交通省

S. M.

<志望動機>

人間と自然が共存する社会を作ることに関心したいと思い、そのための課題の発見・解決することに優れた能力をもつ企業に興味を持った。

<就活の苦労・失敗>

オンラインで面接試験を行ったが、用意した機材に音声トラブルがありスムーズに進められなかった。また、オンライン面接では待ち時間が長く、いつ始まるかわからないことが苦しかったため、林野庁の面接は対面を選ぶことを心に決めた。

<ひとこと>

大学の講義や研究などに忙しく、まとまった時間が取れないことが多いので、早め早めに準備をする意識が必要かと思う。また、しれっと更新されていることがあるので、希望省庁および人事院のホームページはこまめに確認しておくとうい。



- ① 植物生理生態学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ 料理・テニス
- ④ 他省庁、民間企業

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目 環境省
- 3日目

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

プロフィール

M. H

<志望動機>

地元が豪雨被害を受け、その復興活動に参加したことが林野庁を目指すきっかけとなりました。また高校から林業科に所属しており、これまで培ってきた知識や経験を活かしたいと思い林野庁の総合職を志望しました。

<就活の苦労・失敗>

2次試験、官庁訪問対策に苦労しました。特に5、6月は筆記試験と面接対策の両立に追われ、両方とも中途半端にしか準備できなかったです。案の定、初めての面接は全く話せずに合格できないと感じ涙目で面接していました。恥ずかしかったです。

<ひとこと>

最後までどうなるかは誰にも分からないし、常に不安があると思います。それでも悩んで考えて行動できれば確実に将来の選択肢は増えると思います。正直、私も官庁訪問が始まるまでこの選択肢でいいのか悩んでいましたが、今は後悔していません。この一年間、辛いと思いますが時には人に頼って人と比べすぎず後悔のないように頑張ってください。



- ① 森林利用学
- ② 学部4年(学部卒区分)
- ③ サウナ
- ④ 国家一般職、都道府県庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目 林野庁
- 2日目
- 3日目

Y. M

<志望動機>

幼少期から昆虫採種を続ける中で昆虫の減少を身近に感じ、昆虫をはじめとする生物多様性の保全のためにも、生態系の基盤となる健全な森林環境の創出に携わりたいと考え、そうした取り組みに行政の立場から関われることから林野庁を志望しました。

<就活の苦労・失敗>

国家公務員が第一志望であったことから民間の就活に身が入らず、結局総合職一本縛りにしてしまいました。もっと視野を広く持つべきでした。(落ちた時のプレッシャーで毎日胃が痛かったです。)

<ひとこと>

私も昨今の頃は内定者の声を片手に、プレッシャーに耐えながら必死に勉強していました。公務員試験は長丁場なので辛い日々も多いと思いますが、今回の体験記が何か一つでも参考になれば幸いです。最後まで諦めずに頑張ってください！



- ① 主専攻：保全生態学
副専攻：自然保護学
- ② 修士2年(院卒区分)
- ③ 昆虫採種、ドラムゲーム
- ④ 他省庁

<官庁訪問第1ターム>

- 1日目
- 2日目 環境省
- 3日目 林野庁

1次試験

2次試験

官庁訪問

内定者情報

内定者
プロフィール

おわりに

ここまで読んでいただき、ありがとうございました。いかがでしたでしょうか。皆さんの疑問や不安を少しでも取り除くことができたのであれば、大変嬉しく思います。なお、林野庁に関する業務については、本冊子では一切触れておりませんので、林野庁のホームページや説明会での情報収集をお願いいたします。

冒頭でも述べましたが、本冊子に書かれていることは、内定者による主観や一経験です。この冊子でさまざまな経験が述べられていたように、就職活動にはそれぞれに合った方法があります。自分に合った方法を見つけてみてください。

いつか皆さんにお会いできる日が来ることを、内定者一同、楽しみにしています。ぜひ頑張ってください。応援しています。

2023年度 林野庁総合職（技術系）内定者一同